

勉強会 in Tokyo に参加の皆さんへ - 3 横山利弘 1.5. 2020

このホームページにもいろいろと返信を頂きありがとうございました。(先生、さん、) お一人お一人への私からの返信には少し時間を頂きたいと思います。

今日は「勉強会参加の皆さんへ」の1号を発出した経緯について説明しておきたいと思います。それは2本の電話から始まりました。

1本は、我らの先生からの電話で、勉強会が開けないので、私からのメッセージで会員を元気づけてほしいというものでした。(もちろん道徳教育重視の立場から)

もう1本は、私たちの会にもよく参加してくださっていた阪内さんからの電話でした。

その電話の趣旨は、突然全国の学校に対して子どもの登校を控えさせるようにという「自粛要請」が出されたことから、子どもたちはステイ・ホームを余儀なくされている。その子供たちへの対応(特に心のケア)について勉強会のメンバーで知恵を出し合い情報を交換したらいかがですかということでした。

これを受けて第1号を出したのですが、私が少し気負いすぎたため、「むつかしげな」文面になってしまったのではないかと反省しています。趣旨は気楽に勉強会の仲間同士の情報交換をしたいです。

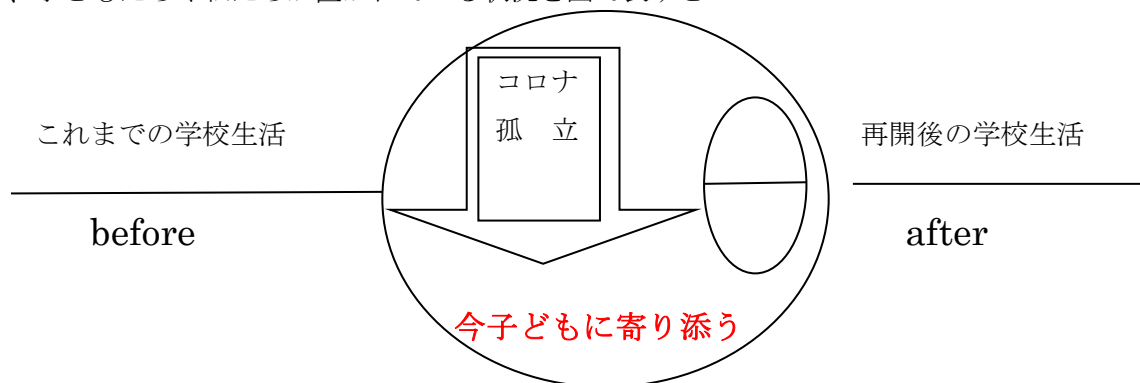
さて、ここからが、第3号の本文です。

一昨日の夜、コロナ患者さんに医療行為をしておられる医師や看護師さんの姿をテレビで見ながらこんなことを思いました。

あの人たちは 今、患者の命を救うために 献身的な尽力をしておられる。

私たちは 今、子どもの心を救うために 献身的に何をすればよいのか

今、子どもたちや私たちが置かれている状況を図で表すと



今こそ子どもサイドに立つべき、今こそ子どもの心に寄り添うために何をすべきか簡単なことでよい、心に響けば。形式よりも実質重視で

経済界はコロナ収束後のV字回復を言っていますが、教育には切れ目はありません。  
今すぐ子どもの心のV字回復を図りましょう。

なぜなら、私たちの職業は、農業従事者に似ています。今もお百姓さんは田畑に出て働いています。なぜなら「生き物」が相手ですから。(余分なことながら、原発事故で田畑に出られなかったお百姓さんたちの苦悩を忖度しましょう。) 私たちは商人ではない。商人は店が開けなければ収入がなくなる。学校は開けなくとも子どもは生きているのですから。今を生きている子どもに手を貸すことができなければ我々の存在価値は無いに等しい、と思います。

偉そうなことを書いてしまいましたが、お許してください。